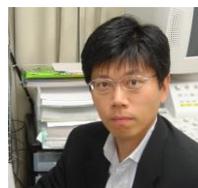




新しい展開を見せる糖尿病とその治療

～その1 糖尿病患者は増加傾向 こんなに怖い合併症～

医療法人社団 有晃会 理事長 船本 全信



糖尿病は、血糖値が病的に高い状態をさす病名です。一言で血糖値が高いと言っても、無症状の状態から、著しい喉の渇き・大量の尿を排泄する状態、さらには意識障害・昏睡に至る状態と様々ですが、これらを全てまとめて血糖値やHbA1c（ヘモグロビンA1c）が基準を越えている場合を糖尿病と言います。日本国内の患者数は、この40年間で約3万人から700万人程度にまで膨れ上がってきており、境界型糖尿病（糖尿病予備軍）を含めると2000万人に及ぶとも言われています。厚生労働省発表によると、2006年11月時点の調査データから、日本国内で糖尿病の疑いが強い人は推計820万人でした。

糖尿病は、調節機構の破綻の様式の違いから大きく1型と2型に分けられます。1型糖尿病では膵臓β細胞（血糖値を調節するインスリンを分泌）が何らかの理由で破壊され、インスリンが「枯渇」し高血糖・糖尿病へと至ります。一方2型糖尿病では、血中インスリンは存在しても肥満などが原因でインスリンの「働きが悪く」なるか、あるいは膵臓β細胞からのインスリンの「分泌が減少」し高血糖・糖尿病となります。

「糖尿病」の名称は、血糖が高まり尿中に糖が排出されることに由来しますが、尿中に糖が排出されること自体には大きな問題はありません。1型糖尿病の場合、放置すると急激な高血糖と生命の危険も伴う意識障害を来す糖尿病性ケトアシドーシスを引き起こすため、インスリン注射などで積極的に血糖値を下げるのが「基本的な」治療目標です。一方2型糖尿病の場合、治療せず長期に放置すると糖尿病慢性期合併症を来し得るため、生活習慣の是正・経口血糖降下薬やインスリン注射により血糖値を下げ「慢性期合併症を防ぐこと」が治療目標です。長期的に落ち着いている1型糖尿病においては、やはり治療目標は2型と同様です。

糖尿病慢性期合併症としては以下の3つがあります。糖尿病性網膜症を発症すると視力が低下～失明に至ります。糖尿病性腎症ではむくみや乏尿・全身倦怠感など種々の症状が出現し、最終的には人工透析が必要になります。糖尿病性神経障害には2種類あって、末梢神経障害（手足の痺れなど）と自律神経障害（便秘、立ちくらみ、勃起不全など）を来します。

これらのような糖尿病に典型的な合併症に加えて、「大血管障害（具体的には心筋梗塞や脳血管障害）」は「病初期である」境界型糖尿病の時点から発症しうるので注意が必要です。そのため、適宜動脈硬化の程度の確認をする必要があります。近年有用とされるのが頸動脈エコー検査で、これはIMT（頸動脈内膜中膜複合体肥厚度）を測定し、IMTが1.1mmを超えると動脈硬化の兆候があり脳神経外科受診が必要となることもあります。症状そのものも重要ですが、「あるべき症状を感じないことがある」ことも糖尿病の重要なポイントです。すなわち、糖尿病性神経障害が合併している方の心筋梗塞がそうです。心筋梗塞は通常激しい胸痛を伴うのですが、糖尿病患者ではこの重要な警告情報である「胸痛」を自覚せず、「無痛性心筋梗塞」と呼ばれます。自覚症状がないので早期の治療を困難にし、心不全を来し初めて発見されます。同様に本来運動時に胸痛を自覚する筈の狭心症も、糖尿病患者では自覚症状に乏しいので症状がなくとも適宜安静時/運動負荷心電図を施行する必要があります。同様に、糖尿病性末梢神経障害で手足の温痛覚が鈍くなっている場合、こたつやカイロで低温やけどを来すことがあります。この際、手足への血液供給が不十分となる閉塞性動脈硬化症を合併している方は、傷ついた手足の皮膚が治癒せずどんどん悪化し巨大足潰瘍となり下肢の切断に至ることがあります。この閉塞性動脈硬化症の診断には血圧脈波検査が有用で、足の血圧/手の血圧<0.9になると下肢の血管の狭窄～閉塞が疑われ精密検査が必要です。

この様に静かに迫りくる合併症を如何に早く見つけて大事にいたらさないかが糖尿病管理において大切です。

（下線の検査は当院で実施可能）

次号（その2 診断と治療）に続く

10月の予定

エコー検査	井上 Dr.	2(土)・16(土)
	杉山 Dr.	1(金)・8(金)・15(金)・22(金)・29(金)
専門外来(血液)	玉置 Dr.	13(水)
専門外来(神経)	藤本 Dr.	2(土)・16(土)・30(土)
食事相談	宮本管理栄養士	18(月)・25(月)

11月の予定

エコー検査	井上 Dr.	6(土)・13(土)・20(土)
	杉山 Dr.	5(金)・12(金)・19(金)・26(金)
専門外来(血液)	玉置 Dr.	10(水)・24(水)
専門外来(神経)	藤本 Dr.	6(土)・20(土)
食事相談	宮本管理栄養士	8(月)・22(月)



ユニバーサルデザインとは

居宅介護支援事業所ふくろう

ユニバーサルデザインとは、ユニバーサル=普遍的な、全体の、という言葉が示しているように「全ての人のためのデザイン」を意味し、年齢や障害の有無などにかかわらず、最初からできるだけ多くの人が利用可能であるようにデザインすることをいいます。



ユニバーサルデザインの7つの原則



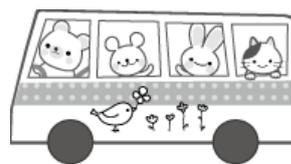
1. 誰でも使えて手に入れることができる。
2. 柔軟に使用できる。
3. 使い方が簡単にわかる。
4. 使う人に必要な情報が簡単に伝わる。
5. 間違えても重大な結果にならない。
6. 少ない力で効率的に、楽に使える。
7. 使うときに適当な広さがある。

具体的な例

- ・シャンプー容器のギザギザ
- ・缶ビールの点字表示
- ・テレホンカードの切れ込み
- ・選べる公衆電話
- ・使い勝手がよい自動販売機
- ・多機能トイレ
- ・ノンステップバス
- ・エレベーターとエスカレーターと階段など



(参考)



似た表現にバリアフリーという言葉が使われます。人を隔てたり、行動を妨げたりする障壁(バリア)を除去した状態を表す言葉です。「あらゆるバリアをなくす」というように広い視野に立って使われたとしても、そのイメージは「障害者、高齢者」のためのものという感じになってしまいます。

普段の生活の中でも誰もが平等、公平に利用できるようにすることがユニバーサルデザインといえます。たまに皆さんが街を歩いているのは「ユニバーサルデザインかな？」と改めて見るのもいいかもしれませんね。

禁煙外来

“そろそろタバコをやめたい”
と思っておられるかた、当院では
禁煙外来も行っております。



是非ご相談下さい。

休診のお知らせ

ご不便おかけしますが、学会の為、
下記の日を休診と致します。

10月27日(水)

